

为 了 明 天

ウエイ ラ ミン ティエン

明日のために

子どもたちに希望を 人々に友情を

特定非営利活動法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

<http://www.sokeirei.org>

題字：周肖

宮城県・南三陸町の保育支援にさらなるご支援を 保育再開支援から保育園再建支援へ！



NPO法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会
代表理事 諏訪 きぬ

会報20号でのアピールどおり、3・11大震災を受けて当会は、「中国貧困地区支援を一時中止して、日本の子どもたちへの支援に立ち上がる」ことにしました。支援地を故須藤前副代表の出身地登米市に隣接する南三陸町に決め、その保育再開の支援に取り組みました。南三陸町に決めた理由は、住民の避難先の登米市は、当会員が須藤さんの墓参に訪れていた地であったこと。そして玉川大学の鈴木牧夫先生が紹介くださったのが志津川保育所主任の三浦房江さんであったこと。5月時点で保育再開がなされていないなかったこと、等でした。

宮城県本吉郡南三陸町は宮城県北東部に位置し、東は太平洋に面し、南は石巻市、西は登米市に接しています。一瞬に町がなくなったと報じられたように、町の7-8割が津波に飲み込まれ、30数名の役場職員が亡くなり、人口約1万8千人のうち約1万人の町民が避難生活を送る、という惨状でした。

南三陸町には私立幼稚園1園と公立保育所5か所がありました。幼稚園と2保育所が流失。幼稚園は公立小学校に間借りしつつ、ユニセフの支援を受けて再開の目途がついたようです。保育所のほうは残る3保育所(志津川・伊里前・名足保育所)で保育を再開し、復興計



画の中で本格的な整備に着手するという事です。皆さまから緊急支援としてお寄せいただいた約100万円は、先方からの要望のあった品々(三輪車やスコップ、砂場セット)などを揃え、6月10日の保育再開に間に合わせるように、6月1日に遊具メーカー“ジャクエツ”の車で運び込みました。また7月19日には上海宋慶齡基金会からの災害支援金の使途の説明も兼ねて再訪し、多忙な佐藤仁町長さんとも面談しました。

上海宋慶齡基金会の支援金は多額でもあり、復興計画による新園建設の基金としてプールできないか、との打診がきています。その要望に沿えるよう、今後、努力したいと思います。高台に新しい町が形成され、保育の拠点が生まれる日が待たれます。南三陸町の保育復興に今後ともご支援をお願いいたします。



大妻女子大学 比較文化学部 教授 石川照子さん

現代日本の課題

上海で働く日本人女性から見えてくるもの

講師 石川照子さん(大妻女子大学比較文化学部教授)

上海は、世界最多の10万人を超す在留日本人を抱える都市であり、多くの日本人女性たちも在住し働いている。上海で働く日本人女性たちから見えてくるものについて、ジェンダー視点からの中国、上海、そして日本、日本社会を考察する。

暮らしの女性との格差が出現し継続している。

上海は、めざましく発展する中国最大の経済都市であり消費都市である。上海在住の日本人の業種や職種は多様化し、県人会や同窓会などのネットワークができ、「上海で働く日本人女性の会」(会員300人)などの団体も活動している。

上海で働く日本人女性へのアンケート(2010年1月~3月実施・有効回答数33)では、製造、貿易・商社、コンサルティングその他18業種で働き、滞在年数は5年以上が46%を占めている。彼女たちにとって上海での経験は大きく、働く手ごたえと同時に日本の長時間労働や年功序列、男女不平等などを感じている。また、仕事の保証や異文化理解の難しさ、自分の将来等についても課題としている。

上海が日本女性たちを引き寄せる要因は、エネルギーやパワーがあり、能力を活かせるチャンス、国際性に加えて、長時間労働などの時間的制約のないジェンダー的開放感だといえる。他方、日本が女性たちを押し出している要因は、長時間労働や性別役割分業意識である。少子高齢化という社会構造の中で、雇用などに女性の活用が課題となっているが、日本の社会では活用できていない。

上海で働く日本人の課題として、中国・日本の背負っている歴史や文化を知り、同じ「人間」としての敬意をもって対する姿勢が大切である。「二項対立」思想を乗り越え、多様な価値観・意識にもとづく多様な生き方の選択が可能な社会の構築が求められている。男性、女性、そしてすべての人々が自分らしく生き生きと生きられる社会への模索と努力が必要である。(文責 井上睦子)

ジェンダーとは、社会的・文化的に規定される性別概念であり、常に変化する可能性を内包している。

日本では、明治維新から敗戦まで「家」制度や法において女性と男性の明確な区別が存在し、男性優位社会であった。敗戦後、「家」制度は廃止され、女性は労働運動や平和運動に参加し、女性のライフサイクルも大きく変化した。しかし、多様な職業についているが正規・非正規雇用の賃金など女性間の格差や、性別役割分業意識が根強いこと出産育児で仕事を辞めるM字型雇用は変わらず、職業継続への支援など、女性労働をめぐる諸問題は解決されていない。

1840年代以前の中国では活躍する女性もいたが、儒学思想が強く女性の行動に対する抑圧や差別が存在した。中華人民共和国成立後の計画経済時代、「半边天」(女性は天の半分を支える)の政策により女性を生産労働の現場へ動員し、男性と女性の同化が図られた。1970年代からの市場経済時代は、競争原理が重視され女子大生の就職難、中年女性のリストラなど女性労働が脅かされ、男性と女性の同化から異化へと変化が生じている。また、能力主義の結果、管理職の女性が活躍する一方、出稼ぎや年金

第20回 JCC 中国講座

予告

中国人の日本観 —戴季陶の日本観を踏まえて—

講師：張玉萍さん(東京大学非常勤講師 第3回「山口一郎」記念賞受賞)

日時：2012年5月12日(土) 午後2時~ 場所：未定 参加費：500円

主催 NPO法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

辛亥革命百年

講師 久保田文次さん
(日本女子大学名誉教授)

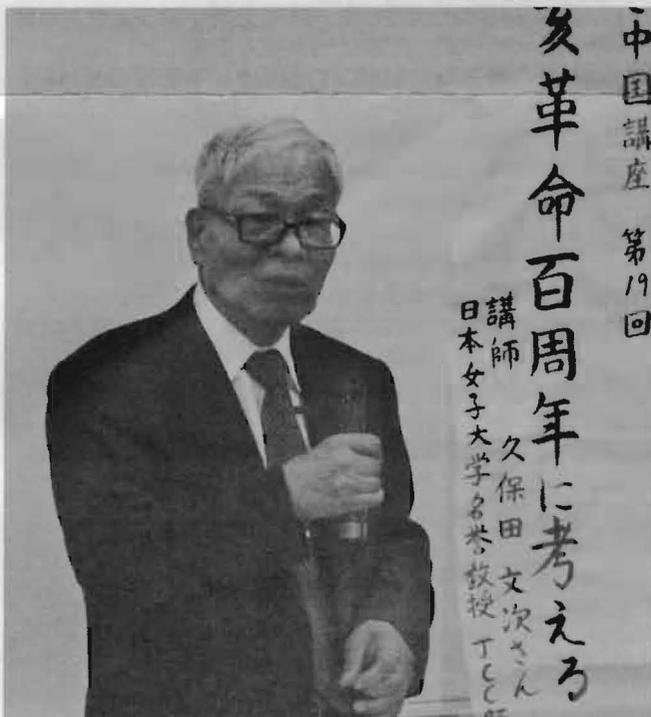
1911年10月10日、湖北省武漢市で起こった清朝政府軍(新軍)の革命反乱は全国に波及、1912年1月1日、南京に中華民国臨時政府が成立し、中国同盟会総理孫文が臨時大總統に就任した。清朝は袁世凱を内閣総理大臣に任じて対抗したが、2月、袁は革命派と妥協して宣統帝溥儀を退位させたので、清朝は滅んだ。孫文らは財政難のため、袁と妥協し、袁を臨時大總統に選出せざるを得なかったが、主権在民を定めた臨時約法を制定しアジアで最初の共和国家が誕生した。旧暦辛亥(かのとい)の年に起こったので辛亥革命と言われる。袁世凱は次第に独裁権力を強めたので、孫文らは1913年第二革命を起こしたが失敗、日本へ亡命した。袁は1915年末皇帝に即位したが、南方に反乱がおこり、1916年帝政を撤回、間もなく急死したので、中華民国・臨時約法・国会が復活、孫文も帰国した。その後も袁の系統の軍閥が北京政府を支配したので、孫文らは南方を根拠に革命を続けた。孫文の中国国民党は1924年に中国共産党と提携、革命運動の発展を

目指したが、孫文は1925年「革命未だ尚成功せず」との遺書を残して病死した。その後も国民党と共産党との内戦、日本軍の侵略があり、1949年に中華人民共和国が成立、国民党は台湾で政権を維持した。

武漢の新軍兵士は革命派の影響を受けたものが多かったが、蜂起計画の発覚、指揮予定者の逃亡・処刑、弾薬支給の停止などの悪条件をもつともせず決起した。工兵大隊がまず弾薬庫を占領、城門を開き、弾薬を決起部隊に支給して蜂起を成功させたことは、下士官・兵士の革命への情熱の強さを物語っている。

百年後の現在、孫文が提起した「民族主義」の内、清朝打倒は成功し、人民共和国内降、欧米と対等な国際的地位を獲得したという成果を挙げた。しかし、国内での少数民族地区に深刻な問題が生じている。「民権主義」では人民主権の共和国にはなったが、実際上は共産党の一元独裁が続いていて、孫文が目指した「憲政」は実現していない。台湾では憲政は制度化されている。「民生主義」のうち、「地権平均」の土地改革は毛沢東によって農民への土地配分が行われたが、後に人民公社化などを経て国有化され、土地私有は認められていない。台湾では有償方式で土地改革が行われた。「節制資本」による国家主導の工業化は「改革開放」による外資導入等で大きな成果を収め、今や規模の面では世界第2位の工業国となった。台湾でも先端産業などが大いに発展した。孫文は福祉国家の建設を目指したが、全国統一的な社会保障制度は不備で、経済格差の拡大が矛盾を増大させている。社会主義・民生主義の理想が調和のとれた「和諧社会」の実現に機能することが求められる。

中国の改革開放経済の成果が著しいことが、孫文や辛亥革命の理想に合致していることが認識され、孫文・辛亥革命に対する評価が高まったことが、百周年の特徴である。成果とともに、その問題点の解決も、孫文・辛亥革命の歴史的検証を踏まえてなされるべきであろう。





北京の秋天のもと…宋慶齡故居での4日間

—『宮崎滔天家蔵：來自日本的革命文献』発刊式に招かれて—

辛亥革命100周年の記念行事の一環として、宮崎家所蔵の中国革命関係史料の相当部分を収録した文献が見事な美術装丁を凝らして、中国宋慶齡基金会研究センターから刊

行され、中国の大学、図書館等に贈呈された。

発刊式は、10月8日紀念宋慶齡国家名譽主席故居（宋慶齡故居）の、宋慶齡の座像が正面に配置されたホールで開催された。滔天の孫宮崎路荃女史、曾孫宮崎黄石氏夫妻を中心に、劉徳有元文化部副部長、序文執筆の章開沅教授・久保田文次教授、尚明軒教授、王曉秋教授等々関係者が一堂に会した。続いて座談会も行われた。

私が北京の宋慶齡故居を初めて訪ねたのは、宋慶齡さんが亡くなられて2年後の夏、1983年8月である。前年末中国宋慶齡基金会第一回理事会が開催されたばかりで、同基金会の事務所は、故居の中にあり、案内して下さった胡今明氏から最初の宋慶齡基金会のリーフを頂き、その後お会いした呉全衡副主席から、日本で宋慶齡基金会を發起して、中国の3億の少年兒童の育成に協力してほしいと要請された。ついで北戴河に宋慶齡女史の友人 I. エプシュタイン氏を訪ね、馬海徳博士、ルイ・アレイ氏、バスター博士とも初めてお会いしたのである。

このたびは、夫とともに武漢、上海の行事にもお招

き頂いたが、私は独り北京に留まり、逝去後30年の宋慶齡女史を偲びたいと思った。故居で私を迎えて下さったのは、誠実な好青年李朋さんを主とする平均年齢30歳代の4人の研究室メンバーだった。宋慶齡さんの寝室、書齋、客室…を何年かぶりに廻った。ベッドの脇にあった英文タイプライターが隣の書齋のテーブルの上に位置を変えていることに気が付いた。私は、当初、ベッドの脇にある英文タイプライターを見て、彼女は、英語で考え、先ず英語で表現する方だ…と考えた。いまでも、そのことは、宋慶齡さんを理解する上で、私には大切なことである。

1924年12月31日宋慶齡さんは、南北の統一、国民会議の実現を目指す孫文に同行して、初めて北京を訪問した。その時すでに重篤の癘に冒されていた孫文を看病しつつ過ごしたのが、鉄獅子胡同であり、協和病院であった。この北京入りの前々日、宋慶齡さんは、天津から宮崎龍介氏（宮崎滔天の長男／滔天は前年に死去）に11月の神戸訪問に際して大変お世話になったと礼状を書き、それに対して龍介氏は、孫文の病状を気遣う温かい書状を書き送っている。

今回、この歴史的な場所—宋慶齡が孫文との最後の時間を過ごした場所に何理良女史（故黄華主席夫人）がご案内下さった。軽快な足取りで旧跡を巡り説明してくださった何理良さんは、86歳。宋慶齡さんを知る方々の優しさ、たくましさを感じた。美しくも懐かしい北京の5泊6日だった。（久保田 博子）

JCC 活動日誌 2011年5月14日～2012年1月14日

2011年

- 5月14日 第18回 JCC中国講座「現代日本の課題—上海で働く日本人女性から見えてくるもの」講師：石川照子さん
第82回事務局会議
- 5月17日 東日本大震災 宮城県南三陸町支援プロジェクト、「中間報告1」を作成・送付
- 5月25日 久保田博子理事、NHK BSプレミアム「シリーズ中国に君臨した女たち」第3回「宋慶齡“獅子”と呼ばれた女」に出演
- 5月28日 東日本大震災 宮城県南三陸町支援プロジェクト、「中間報告2」を作成・送付
- 5月29-31日「宋慶齡及其時代」国際シンポジウムに参加（石川照子、川崎高志、久保田文次、久保田博子、渋谷文雄、沈潔）
- 5月30日 上海宋慶齡基金会第4期理事会に出席（川崎・久保田博子・渋谷）。席上上海宋慶齡基金会より東日本大震災に対して200万元の義捐金寄付が表明された。
- 6月 1日 JCC東日本大震災緊急支援、南三陸町四志津

川保育所に保育用具・遊具130万円分を寄付

- 6月26日 第83回事務局会議
- 7月17日 JCC理事会・臨時総会開催
- 7月19日 JCC代表団、南三陸町支援プロジェクトで現地訪問、佐藤仁町長等と会見
- 8月 5日 南三陸町支援プロジェクト中間報告をHPに掲載
- 9月17日 第84回事務局会議
- 9月27-29日 北京中国宋慶齡基金会第6期理事会出席（井岡今日子）
- 10月 7-12日 辛亥革命百周年記念行事出席（久保田文次、久保田博子）
- 10月15日 第85回事務局会議
- 11月 5日 第19回JCC中国講座「辛亥革命百周年に考える」講師：久保田文次さん
- 11月20日 第86回事務局会議
- 12月11日 第87回事務局会議
- 12月12日 上海中国福利会教育視察団来日（季紅星団長）、青山こどもの城見学訪問
- 12月13日 同訪日団一行八王子訪問、歓迎昼食会

2012年

- 1月14日 「為了明天」第21号発行

「為了明天」No.21
2012年1月14日発行

発行者：NPO法人宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会 代表理事 諏訪きぬ
〒192-0904 東京都八王子市子安町1-43-6-206 TEL/FAX 042-646-4210

郵便振替：00170-2-152423
三菱東京UFJ銀行八王子支店（普通）4731623